

主日礼拝

2020年4月26日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「眠りにについている者、起きよ。
死者の中から立ち上がれ。
そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」
エフェソ 5:14 (46)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいれいのひとりの主よ、さかえとち
からはた一だ主に あれ一、と一こしえまで一。
アーメン。

リタニー 「いのちを感謝して」

司式者：神さま、いのちって不思議です。
みんな：神さまがいのちをくださいました。
司式者：年をとった人、若い人、あの人にも
この人にも、
みんな：神さまがいのちをくださいました。
司式者：人間だけでなく、木も、草も、動物も、
みんな：神さまがいのちをくださいました。
牧師：あなたの神、主を愛し、御声に聞き
従いなさい。
そうすればあなたは生きる。
司式者：一人ひとりのいのちの豊かさが
みんな：神さまの愛のしるしです。
司式者：いのちを感謝し、
手をたすさえて、わたしたちは進みます。
みんな：いのちの源、神さまの愛に感謝して、
アーメン。

祈禱

献金 主の復活に感謝して、ご用意のある方は
献金をおささげください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出されたまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 ヨハネによる福音書 21:1~14

新約(新共同訳) P211

その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、

「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

賛美 402 「いともとうとき」

I love to tell the story
詞: Katherine Hankey, 1834-1911

TELL THE STORY (HANKEY)
曲: William G. Fischer, 1835-1912

いともとうと〜きイエスのめぐみ、つみに死にたる
身をもい-かす。主よりたまわるとんのかて-に
(くりかえし)
うえしこころもいまはみちぬ。世にあるかざり、
主のみさかえといつくし-みとをかたりつたえん。

- | | | | |
|---------|--|---|---|
| 1 | いともとうとき イエスの恵み、
罪に死にたる 身をも活かす。
主よりたまわる 天の糧に
飢えしこころも いまは満ちぬ。 | 2 | 救いの恵み 告ぐるわれは
喜びあふれ 歌とぞなる。
滅びを出でし この知らせを、
あまねく人に 語り伝えん。 |
| (くりかえし) | 世にあるかざり、主のみ栄えと
いづくしみとを 語り伝えん。 | 3 | 語り尽くせぬ イエスの恵み。
いとも小さき われをも召し、
天の世嗣と なしたまえば、
たれか洩るべき 主の救いに。 |

説教 「主との食事 再び」

賛美 524 「われらみ名により」

Draw us in the Spirit's letter
詞: Percy Dearmer, 1867-1936

UNION SEMINARY
曲: Harold Friedell, 1905-1958

1 われら み名により ここにつ
2 むかし でしたちがパンとさ
3 ひごと しょくたくを かこむわ
どうときは いつも 主なるイエスが
かざきとり しゅくし、 わけたように
れらをいま、 たすけ、 はげましあう
ともに いてくださる。 ハレルヤ、
ともに しょくじをしよう。 ハレルヤ、
でしと してくださる。 ハレルヤ、
ハレルヤ、 イエスのみこころもにふれよう。
ハレルヤ、 まじわりがつよめられる。
ハレルヤ、 こころから主につかえよう。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 佐々木 悠
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵